

子ども対象・暴力的性犯罪の再犯防止対策について

子ども対象・暴力的性犯罪（被害者が13歳未満である強姦、強盗強姦、強制わいせつ又はわいせつ目的略取・誘拐）については、

子どもは犯罪の回避能力が低い

子どもは特に心身に受けるダメージが大きい

保護者など地域社会に与える不安が大きい

ことから前歴者による再犯防止対策を進めるため、子ども対象・暴力的性犯罪の被疑者について再犯状況等の調査を行っているが、その結果が下記1のとおり得られたので、下記2のとおり再犯防止対策に取り組む。

1 子ども対象・暴力的性犯罪の被疑者についての調査結果等

(1) 子ども対象・暴力的性犯罪の被疑者の犯罪経歴調査結果

平成16年に警察が検挙した子ども対象・暴力的性犯罪の被疑者466人について犯罪経歴を調査した。

ア ある犯罪を犯した者が再び同じ犯罪を犯す可能性をみるためには、ある犯罪の検挙人員のうち同一の犯罪の経歴を持つ者の割合（再犯者率）をみるのが有効。

子ども対象・暴力的性犯罪の再犯者率は15.9%であり、他の犯罪の再犯者率（傷害(20.6%)、恐喝(20.1%)、詐欺(19.8%)、窃盗(18.6%)等）と比べて必ずしも高くないことから、子ども対象・暴力的性犯罪を犯した者がそれを繰り返す可能性は、他の罪種の犯罪者がその罪を繰り返す可能性に比べて高いとは必ずしもいえない。（資料図表1及び図表2）

イ 平成16年の子ども対象・暴力的性犯罪者466人中、過去に何らかの犯罪経歴があった者は193人であった。

この193人のうち、過去の犯罪も子ども対象・暴力的性犯罪であった者は74人（38.3%）に上る一方、他の犯罪経歴のある者は119人（61.7%）であった。平成16年の全刑法犯検挙人員約39万人のうち、子ども対象・暴力的性犯罪の検挙人員466人が占める割合は0.1%にすぎないことを考えれば、何らかの犯罪経歴がある者のうち、極めて少数の子ども対象・暴力的性犯罪の経歴を有する者が、同じ子ども対象・暴力的性犯罪の4割近くを引き起こしていることを示している。このことは、子ども対象・暴力的性犯罪が、子ども被害性犯罪の経歴者により引き起こされる可能性が極めて高いことを示している。（資料図表3）

ウ 従って、子ども対象・暴力的性犯罪を防止するためには、それを犯した者を把握することが有効である。

(2) 子ども対象・強姦の被疑者の再犯状況調査中間結果

科学警察研究所において、昭和57年から平成9年までの間に警察が検挙した子ども対象・強姦事件被疑者527人のうち追跡可能な506人について、16年6月末までの再犯状況を調査した。

- ア 全体の20.4%に当たる103人が検挙後に再び強姦又は強制わいせつの再犯に及んでおり、うち子どもを被害者としたものは47人であり、性犯罪を行う場合には再び子どもを狙う割合が高いことを示している。
- イ 対象事件以前にも暴力的性犯罪（被害者年齢を問わない）の犯罪経歴がある者は、そうでない者に比べて強姦又は強制わいせつの再犯に及んだ者が2.5倍であった。（資料図表4）

2 子ども対象・暴力的性犯罪の再犯防止対策について

調査結果を踏まえつつ、子ども対象・暴力的性犯罪の再犯防止を図るため、これらの犯罪の前歴者について法務省から出所情報の提供を受けるとともに以下の対策を進めることとした。

子ども対象・暴力的性犯罪に係る出所者について、現行法制下で可能な範囲で、出所後の居住状況等を確認するとともに、対象者が転居した場合にあっては、出所後の動向等を踏まえ、転居先の確認に努める。

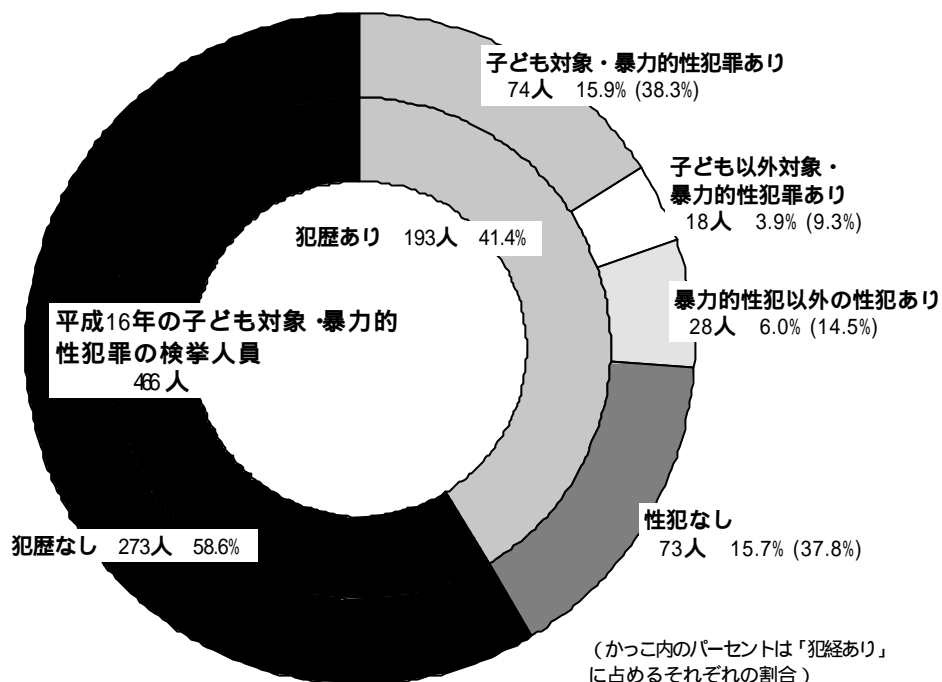
子どもに対する声かけ・つきまとい等が発生している場合には、行為者の特定のために保有する情報を活用

犯罪行為があれば検挙等の措置を講じ、犯罪に至らなくても事案に応じて行為者に警告するなどにより、未然防止に努める。

性犯罪が発生した場合には、迅速な捜査等のため情報を活用

なお、子ども対象・暴力的性犯罪以外の犯罪を犯した者に係る出所情報等の提供を法務省から受けることについても、引き続き協議を進める。

図表1 子ども対象・暴力的性犯罪の検挙被疑者（犯罪経歴の有無・内容別）



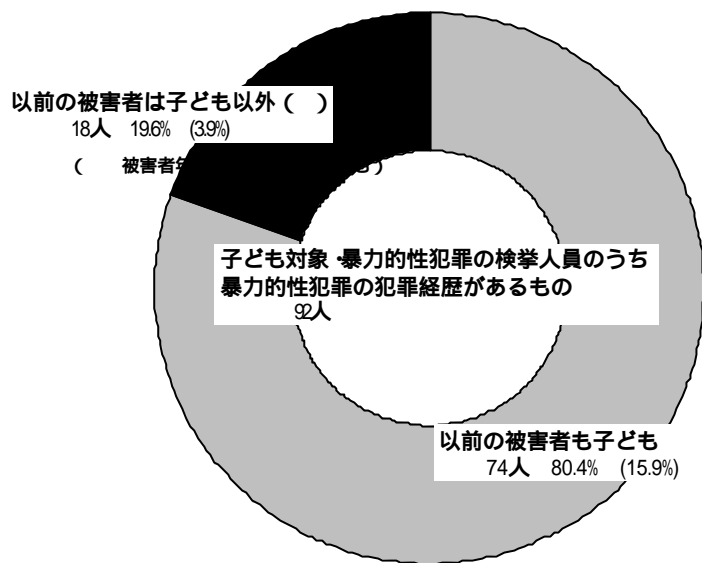
	平成16年の子ども対象・暴力的性犯罪の検挙人員						
		うち) 犯罪経歴あり					うち) 犯罪経歴なし
		うち) 子ども被害・暴力的性犯罪あり	うち) 子ども以外被害・暴力的性犯罪あり	うち) 暴力的性犯罪以外の性犯罪()あり	うち) 性犯罪なし		
暴力的性犯罪総数	466	193 41.4%	74 15.9% (38.3%)	18 3.9% (9.3%)	28 6.0% (14.5%)	73 15.7% (37.8%)	273 58.6%
強姦	42	16 38.1%	3 18.8%	2 (12.5%)	1 (6.3%)	10 (62.5%)	26 61.9%
強制わいせつ	400	164 41.0%	67 40.9%	13 (7.9%)	24 (14.6%)	60 (36.6%)	236 59.0%
強盗強姦	0	0	0	0	0	0	0
猥褻目的略取・誘拐	24	13 54.2%	4 30.8%	3 (23.1%)	3 (23.1%)	3 (23.1%)	11 45.8%

括弧内の数字は「犯罪経歴あり」に占めるそれぞれの割合

() 窃盗のうち色情ねらい、公然わいせつ、児童買春・児童ポルノ禁止法(児童買春)、青少年保護育成条例(淫行)、軽犯罪法(のぞき、つきまとい)及び迷惑防止条例(卑猥な行為)

【調査対象は、平成16年に警察が検挙した子ども対象・暴力的性犯罪(被害者が13歳未満である強姦、強盗強姦、強制わいせつ又はわいせつ目的略取・誘拐)の被疑者について、過去の犯罪経歴】

図表2 子ども対象・暴力的性犯罪の検挙人員のうち、以前にも暴力的性犯罪を犯している者の被害者年齢別状況



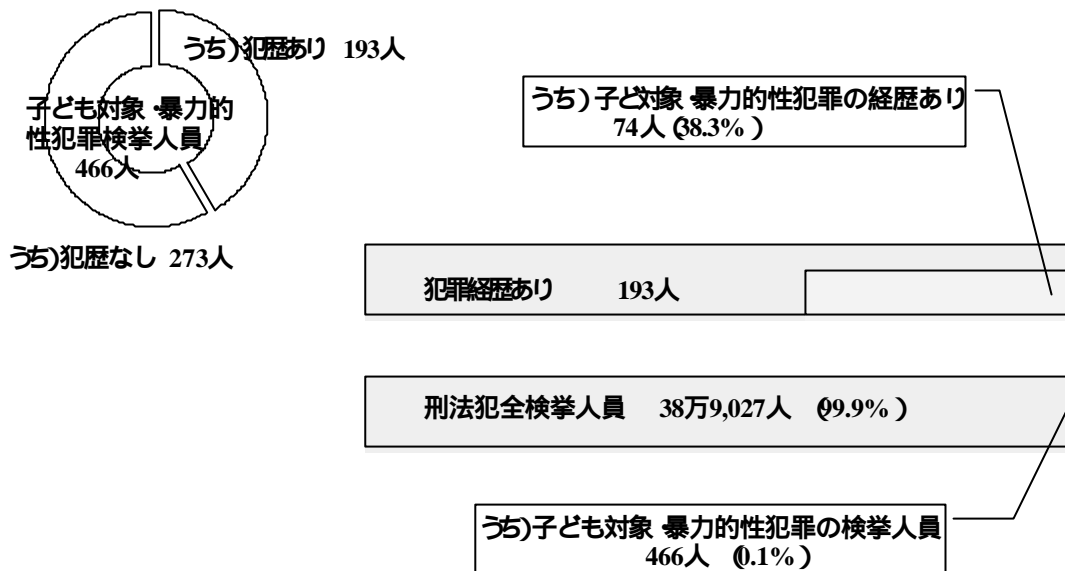
(カッコ内は「子ども対象・暴力的性犯罪検挙人員全体」に占めるそれぞれの割合)

	子ども対象・暴力的性犯罪の検挙人員のうち、過去に暴力的性犯罪ありのもの				
		以前の被害者も子ども		以前の被害者は子ども以外	
		人員	割合	人員	割合
暴力的性犯罪総数	92	74 80.4% (15.9%)	18 19.6% (3.9%)	()	
強姦	5	3 60.0%	2 40.0%		
強制わいせつ	80	67 83.8%	13 16.3%		
強盗強姦	0	0 -	0 -		
わいせつ目的略取・誘拐	7	4 57.1%	3 42.9%		

() 括弧内は平成16年の子ども対象・暴力的性犯罪の検挙人員466人全体に占める割合

【調査対象は、平成16年に警察が検挙した子ども対象・暴力的性犯罪(被害者が13歳未満である強姦、強盗強姦、強制わいせつ又はわいせつ目的略取・誘拐)の被疑者のうち、それ以前にも暴力的性犯罪を犯しているものについて、以前の被害者が子どもであったかどうか】

図表3 子ども対象・暴力的性犯罪ありの者の把握の有効性



図表4 子ども対象・強姦で検挙した被疑者の検挙後の再犯状況

	対象者全体 (506人)					
			うち) 暴力的性犯歴あり (144人)		うち) 暴力的性犯歴なし (362人)	
	人員	割合	人員	割合	人員	割合
再犯あり	240	47.4%	87	60.4%	153	42.3%
強姦又は強制わいせつあり (うち被害者が子ども)	103 (47)	20.4% (9.3%)	51 (22)	35.4% (15.3%)	52 (25)	14.4% (6.9%)
強姦あり (うち被害者が子ども)	47 (15)	9.3% (3.0%)	23 (6)	16.0% (4.2%)	24 (9)	6.6% (2.5%)
強制わいせつあり (うち被害者が子ども)	76 (35)	15.0% (6.9%)	38 (18)	26.4% (12.5%)	38 (17)	10.5% (4.7%)
強姦及び強制わいせつあり (うち被害者が子ども)	20 (3)	4.0% (0.6%)	10 (2)	6.9% (1.4%)	10 (1)	2.8% (0.3%)

【調査対象は、昭和57年から平成9年までの間に警察が検挙した子ども対象・強姦の被疑者527人のうち追跡可能な506人について、検挙後平成16年6月30日までの間における再犯の状況】